

スーパー堤防に代わる「地中連続壁工法」での堤防強化を求める陳情

(建設委員会付託)

受理番号 第62号

受理年月日 平成23年11月 2日

付託年月日 平成23年11月24日

陳情者

.

陳情原文 いま、わが国は1,000兆円を超える借金があります。各種の年金も破綻状態にあります。このような環境の中で、完成まで400年、12兆数千億円もの巨費を投入する高規格堤防（通称スーパー堤防）は、果たして国民の理解を得られるでしょうか。

ここにTRD工法（等圧式ソイルセメント地中連続壁工法）という新しい技術があります。これは土にセメントを混ぜて強化、地中に連続的な壁を作る工法のことです。例えば幅は50～80cm、深さは20～30m、費用は前記で1m当たり50万円程度で済みます。幅も深さも自由に変えられます。液状化対策、地盤の補強、地下水の遮断にも有効です。

例えば、利根川の流量基準点の八斗（やった）島から銚子までの両岸約400km、江戸川は分派点の関宿から東京湾まで同約100km、合計500kmを2,500億円で完成させることが可能になります。地中の基礎部分に腐食の危惧が考えられるなら、部分的にステンレスでの補強も考えられます。

この方法なら、

- 1 住宅を壊す必要がない。
- 2 住民を長期間、移転させる必要がない。
- 3 新たな盛り土の必要がない。

北小岩の江戸川右岸2.2kmに要する1,700億円に比べ、500kmで2,500億円前後は極めて安価です。

仮に国が、1割から2割の重点区間を年内に発表する、というのであれば、是非このTRD工法（等圧式ソイルセメント地中連続壁工法）を導入されたく考えます。どうか江戸川区に於いても、スーパー堤防に代わるTRD工法（等圧式ソイルセメント地中連続壁工法）の採用をされますよう陳情します。